

関係する事柄の解説

1. 戦国時代から江戸初期の頃の小牧

小牧は、15世紀には清須を中心とする尾張の交通の大切な場所でした。

1563年、織田信長は美濃を攻めるための拠点として小牧山に城を作り、山の南に城下町を作りました。

1567年に信長は稲葉山城（岐阜城）に移りましたが、町はそのまま存続しました。

1584年、羽柴（豊臣）秀吉と徳川家康との対立から「小牧・長久手の戦い」がありました。このとき、家康は小牧山城を改修して使用し、秀吉は犬山城に入りました。戦いは、小牧山城と岩崎山砦との対立などの布陣から始まり、長久手地域での戦闘へと展開していきました。

1623年、木曾の山林を持っていた尾張藩は街道を整備し、小牧山のふもとにあった町を現在の市街地（当時は原野だった）の場所に移して新たな宿駅を作ることにしました。この移転には約10年かかり、ここに「小牧宿」が誕生しました。

2. 小牧宿

小牧宿は木曾街道（上街道）を整備するために、元々小牧山の南にあった旧小牧の町を、現在の小牧山東部に移して町並みが作られました。街道は現在の上街道商店街へ南から入って突き当たりの戒蔵院を東に行き、ラピオ西の交差点を曲がって北に向かっています。

3. 吉五郎

小牧山の小牧山稲荷神社にまつられているキツネです。尾張北部のキツネたちを束ねる大親分だったと伝わっています。小牧市民まつりのマスコット「きっちゃん」のモデルでもあります。

4. お初とお梅

吉五郎伝説にまつわるキツネです。「お梅」は御林（現在の小牧高校付近）のキツネで、吉五郎に無理やり女房にされました。ところが、吉五郎は後に正妻として、下津山（現在の味岡付近）から若い「お初」を迎えます。それが原因で小牧中を騒がす騒動になったとされています。現在、「お梅」は神明社境内の「御林稲荷」に、「お初」は上新町にある黒須雲神社の境内にまつられています。

5. 木造十一面観音菩薩立像

戒蔵院にある木造の観音像です。室町時代に作られたものと考えられ、古くから「小牧のおかんのん」「火伏観音」として信仰されてきました。

6. 名古屋コーチン

正式な品種名は「名古屋種」といます。卵をよく産み、肉もおいしく、最も知名度が高いブランド地鶏として、多くの人々から愛されています。明治初期に、海部壮平・正秀兄弟によって、現在の小牧市池之内で誕生し、「国産実用鶏」の第一号に認定されました。小牧駅前に「発祥の地」のモニュメントがあります。

7. 「身体健康精神活潑」の扁額

小牧小学校に掲げられている福沢諭吉の書です。この言葉は、今も学校の校訓となっています。学校の東門には説明のパネルがあります。市指定の有形文化財です。

8. 昭和2年の演習

昭和2年（1927年）に小牧山や岩崎山の付近で、天皇の親閲のもとで陸軍の演習が行なわれました。そのときに、天皇が渡るための橋（御幸橋）が合瀬川にかけられました。小牧山の山頂には、この演習を記念する石碑があります。